

環境マネジメント

基本的な考え方

三菱自動車は、環境への取り組みを確実かつ効率的に推進するため、環境マネジメントの体制を構築しています。

社員への教育・啓発活動や、関係会社の環境マネジメントシステムの認証取得の推進など、グループ一体となって環境への取り組みを推進しています。

また、当社はWebサイトやサステナビリティレポートを通じて当社の取り組みを発信しており、様々なステークホルダーの皆様からのご意見を頂く機会を大切にしています。

マネジメント体制

当社は、1993年以降、社長および各業務の担当役員が出席する「環境会議」を開催してきました。2017年度からは、執行役CEOを委員長とする「サステナビリティ委員会」を開催しており、環境課題を当社のマテリアリティ（重要課題）と位置づけ、当社の環境に関する方針や目標などを審議するとともに、環境行動計画の進捗状況・実績を確認しています。その中でも特に重要な事項については、取締役会に報告することとしています。

マネジメント対象会社 (21社)

生産関係会社

| 国 | 会社名 |
|--------|--|
| 日本 | パジェロ製造株式会社 三菱プラスチック株式会社 |
| タイ | ミツビシ・モーターズ(タイランド)・カンパニー・リミテッド(MMTh) エムエムティエイチ・エンジン・カンパニー・リミテッド(MEC) |
| フィリピン | ミツビシ・モーターズ・フィリピンズ・コーポレーション(MMPC) エイシアン・トランスミッション・コーポレーション(ATC) |
| インドネシア | ミツビシ・モーターズ・クラマ・ユダ・インドネシア(MMKI) |
| 中国 | 广汽三菱汽车有限公司(GMMC) |

非生産関係会社

| 国 | 会社名 |
|----------|---|
| 日本 | 三菱自動車エンジニアリング株式会社 三菱自動車ロジテクノ株式会社 東関東MMC部品販売株式会社 東日本三菱自動車販売株式会社 西日本三菱自動車販売株式会社 |
| アメリカ | ミツビシ・モーターズ・ノース・アメリカ・インク(MMNA) ミツビシ・モーターズ・アールアンドディー・オブ・アメリカ・インク(MRDA) |
| プエルトリコ | ミツビシ・モーター・セールス・オブ・カリビアン・インク(MMSC) |
| オランダ | ミツビシ・モーターズ・ヨーロッパ・ビー・ブイ(MME) |
| ドイツ | ミツビシ・モーター・アールアンドディー・ヨーロッパ・ジーエムビーエイチ(MRDE) |
| U.A.E. | ミツビシ・モーターズ・ミドルイースト・アンド・アフリカ・エフゼットイー(MMMEA) |
| オーストラリア | ミツビシ・モーターズ・オーストラリア・リミテッド(MMAL) |
| ニュージーランド | ミツビシ・モーターズ・ニュージーランド・リミテッド(MMNZ) |

環境行動計画2019

三菱自動車は、2019年度までの環境への取り組み計画として、「環境行動計画2019」を2018年3月に策定し「環境マネジメントの強化」と「環境課題に対する取り組み」の二つを柱として取り組みました。2020年度以降は、新たに策定した「新環境計画パッケージ」の実現に向けて取り組みを推進していきます。

環境行動計画2019実績一覧表

①環境マネジメントの強化

○：計画通り △：遅れあり

| 分野 | 取り組み項目 | 実施事項 (目標年度：2019年度) | 2019年度実績 | 評価 |
|------------|---------------------|---|--|-------------|
| 環境マネジメント | 再生可能エネルギーの利用促進 | 地域特性を踏まえた再生可能エネルギーの活用 | 岡崎製作所の再生可能エネルギー(太陽光発電)設備の稼働を開始 | ○ |
| | 水資源の保全 | 各生産拠点の水リスクを踏まえた管理の実施 | 国内生産拠点の水使用量実績を把握 | ○ |
| | 購買活動での環境配慮 | 海外工場の取引先へのグリーン調達ガイドライン展開 購買取引先の環境マネジメント状況・CO ₂ 排出量の把握 | 海外工場の取引先向けのグリーン調達ガイドラインを展開 CDPサプライチェーンプログラム(気候変動)を通じ取引先の環境マネジメント状況・CO ₂ 排出量を把握 | ○ ○ |
| 販売活動での環境配慮 | 販売会社へのエコアクション21認証推進 | 販売会社へのエコアクション21認証推進 | 新たに4社が認証を取得し、継続推進中 | △ |
| | 環境データ管理 | 環境データ一元管理システムの刷新 新型車のGHG(※1)排出量のLCA(※2)の実施および評価手法の信頼性向上 | 新たに19店舗の電動DRIVE STATIONを展開し、継続推進中 新たな環境データシステムの運用を開始 生産工程データの調査を検討中 | △ ○ △ |

※1：Greenhouse Gasの略称、温室効果ガス

※2：Life Cycle Assessmentの略称、生産から廃棄までの環境負荷を算出して評価する方法

②環境課題に対する取り組み

| 分野 | 取り組み項目 | 実施事項 (目標年度：2019年度) | 2019年度実績 | 評価 |
|--------------|------------------------------|---|----------------------|----|
| 気候変動・エネルギー対策 | 自動車走行時のCO ₂ 排出量低減 | 新車1台あたりの走行時CO ₂ 排出量：2010年度比 ▲8% | ▲14% | ○ |
| | 次世代環境配慮車の技術開発 | モーター効率改善手法の開発推進 | 計画通り開発を推進 | ○ |
| | 生産活動でのCO ₂ 排出量低減 | 生産拠点での生産台数あたりCO ₂ 排出量：2005年度比 ▲37% | ▲41% | ○ |
| | 非生産活動でのCO ₂ 排出量低減 | 非生産拠点のCO ₂ 排出量原単位：前年度比 ▲1% | ▲8.1% | ○ |
| 資源循環 | 物流活動でのCO ₂ 排出量低減 | 国内物流での輸送量あたりCO ₂ 排出量：2010年度比 ▲9% | ▲9.3% | ○ |
| | 省資源配慮材料の実用化と採用拡大 | 省資源部品技術の実用化とリサイクル部材の採用拡大 | リサイクル材適用部品の開発を推進中 | △ |
| | 廃棄物の低減 | 生産活動での生産台数あたり社外排出量：2005年度比 ▲52% | ▲53% | ○ |
| 汚染防止 | 製品含有環境負荷物質のリスク管理体制整備 | 管理対象物質の適切な管理 | 法規動向を含め適切な管理を継続 | ○ |
| | 環境負荷物質の低減 | 生産活動での塗装面積あたりVOC(※3)排出量：35g/m ² 以下 | 36.5g/m ² | △ |
| 環境保全 | 生物多様性保全活動の推進 | 国内拠点の生物調査・保全施策実施 | 京都工場での生物調査を実施 | ○ |
| | | パジェロの森での植林・育林活動 | 年2回の活動を実施 | ○ |
| | | 海外事業拠点での植林活動 | フィリピンでの植林活動を計画 | ○ |

※3：Volatile Organic Compoundsの略称、揮発性有機化合物

環境マネジメントシステムの構築

三菱自動車は、2010年度からISO14001の全社統合認証を取得しており、国内外の主要関係会社でもISO14001やエコアクション21(※)の認証を取得し、運用しています。2019年度までの、環境マネジメント対象会社(当社を含む)に対する環境マネジメントシステムの認証取得率は約55%です。

エコアクション21については、2019年度までに国内販売会社のうち23社が認証を取得しています。

※：中堅・中小事業者向けの環境経営システムとして、環境省が策定したガイドラインにもとづく認証・登録制度

エコアクション21の取得販売会社一覧表については、P32をご参照ください。

ISO14001認証取得状況(2020年6月末現在)

| 開発 |
|-------------------------------------|
| 三菱自動車エンジニアリング株式会社 |
| 生産 |
| パジェロ製造株式会社 |
| 水菱プラスチック株式会社 |
| ミツビシ・モーターズ・フィリピンズ・コーポレーション(MMPC) |
| エイシアン・トランスミッション・コーポレーション(ATC) |
| ミツビシ・モーターズ(タイランド)・カンパニー・リミテッド(MMTh) |
| エムエムティエイチ・エンジン・カンパニー・リミテッド(MEC) |
| ミツビシ・モーターズ・クラマ・ユダ・インドネシア(MMKI) |
| 物流・アフターセールス |
| 三菱自動車ロジテクノ株式会社 |

環境教育・啓発

当社は、役員・社員の全員がサステナビリティについて理解を深め、日々の業務を通じて持続可能な社会の実現に貢献できるよう、1年を通してサステナビリティに関する浸透活動を行っています。環境教育・啓発については、この浸透活動の一環として実施しています。

2019年度は、当社がサステナビリティのために果たすべき社会的責任やサステナビリティと環境との関わり、環境問題と当社の事業活動の関係などについての理解促進を、階層別研修やeラーニングで図りました。

サステナビリティの浸透活動については、P9をご参照ください。

外部とのコミュニケーション

当社は、環境への取り組みをウェブサイトやサステナビリティレポートなどで公開しています。また、環境をはじめとした非財務情報について機関投資家や有識者と対話を図り、当社の今後の取り組みに生かしています。

ウェブサイト・サステナビリティレポートによる環境情報の公開

当社の環境への取り組みについて広く知っていただくため、ウェブサイトやサステナビリティレポートを通じて、環境への取り組みの考え方や内容について情報公開しています。サステナビリティウェブサイト「環境」
(WEB) <https://www.mitsubishi-motors.com/jp/sustainability/environment/>

投資家とのコミュニケーション

投資家との対話を行い、環境を含む非財務情報について意見交換を行っています。

2019年度は、国内海外のスチュワードシップご担当の機関投資家と対話を実施し、気候変動のリスクや機会、TCFDへの対応や当社のCO₂排出量、電動車などについて、サステナビリティ領域を担当する役員などが様々なご意見を伺いました。

環境規制遵守、事故・苦情対応

三菱自動車は、公害防止関係の法令などの環境規制に対して、過去に発生した違反事案も教訓とし、規制の遵守を徹底しています。

また、近隣地域の皆様からの苦情については、状況を調査し確認したうえで、真摯に対応するよう努めています。

環境法令などの違反、規制値超過などの環境事故、苦情が発生した場合、関連部署は、その内容、処置などを明確にした「法的不適合報告書」をコンプライアンス部へ提出し、適切な対策を講じています。さらに、再発防止のため、業務プロセスの改善、監視体制の強化、社員の意識づけの強化に取り組んでいます。

2019年度は、環境法令（※）違反による罰金、措置命令などを受けた事案はありませんが、2件の水質汚濁防止法の規制値超過が発生したほか、臭気および騒音に関する2件の苦情がありました。

また、上記以外に、社内の自主点検・監視活動などにより、10件の法的要求事項への不適合（届出遅延、点検不備など）がありました。

発生した事案については、速やかに発生事象を是正し、再発防止策を講じるとともに、他の関連部門に発生事象や対策についての情報を共有しています。

※水質汚濁防止法、大気汚染防止法など、環境に関わる法令として社内
で定めた31法令

LCA(ライフサイクルアセスメント)の取り組み

当社は、製品のライフサイクル全体での環境負荷を把握するために、LCA(ライフサイクルアセスメント)を実施しています。部品や素材にかかわる資源の採掘、素材製造、部品製造、車両組立、燃料製造、走行、廃車処理、その他の工程を対象に、主にCO₂排出量を集計して評価しています。

環境に対応するための先行開発部品や、電動車、新型車などにLCAを実施し、ライフサイクルCO₂排出量について、従来型の部品や車両と比較しています。最近では『エクリプス クロス』や『トライトン』などに実施、サステナビリティレポートで開示しました。

各国・各地域でライフサイクル全体の環境負荷に対する関心が高まってきていると認識しています。規制やインセンティブなどの動きに対しても対応できるよう、体制や基盤づくりも進めていきます。

LCAの実施例

| | LCA実施例 | 目的 |
|-------|-----------------|-------------------------------------|
| 部品・技術 | 樹脂を使用したボディ部品 | ・軽量化効果の確認 |
| 車両 | アウトランダー PHEV | ・ベースのガソリン車からの改善効果の把握 ・要素部品の影響の把握 |
| | エクリプス クロス、トライトン | ・従来型車または同クラス車との比較 |